

■へおわかいのまたつしやりまし

杜へ■のおかたかぞんぜねどまてと

ぎよいなされたはみどもが事で

ムルか 幸へさやうでムリ升かまくら

がたのおやしきへおふく出入の

わしがせうばいそれをかこつけ

有やらは遊山半分江

のしまのかいてうかけて思はぬ

ひま入どふてとまりは早川と

かはばたからのもどりかこ

とうりかゝつたすが森

わかいおかたのお手の内

あまり見事とかんしん

いたしました 杜へこふしも

わぶきなまびやうほう

おはづかしうそんじ升

幸へ見うけ升ればまだ

ごせんはつのおさむら

さまおひとりたびて

ムリ升か 杜へごらんの通り

それがしはかつて

ぞんせぬあづまぢへ

ちづごくすじより

はるく／＼とくれに

およびしいそぎはに

ひとりたびとあな

とつてむなしけ

ごんのくも助も

きやつらはま

さしくなひ

おとし命を

とるもせつしやらと

ぞんじたなれどつけあがり

やむことを多<sup>かず</sup>ふてきの

ものどもゆきの人の

ためにもとかくの仕合

きじもなかずは

うたれまい多<sup>き</sup>

ない事をいたし

ました 幸<sup>へ</sup>大ぜうぶ

きられたやつらは

六<sup>七</sup>人あなたさま

にはたつたおひとり

じやくねんの

お手ぎには

をどろきいり升た

こうぐわいいたし

ませぬお刀はお納め

なされまし只今承りま

すれば中国すじとおつしやり

ますがシテ江戸おもては何御用

ゞゞつて 杜へサ別の用もゞゞらねど

ま無き母のざんにより心に思はぬふきの

おめい父のかん気に力なくお江戸は

はん■と承りぶけぼう公が致したサ

幸へなるほど御みぶんの一トとうり承りまして

おどろき入ました事によつてはおせはいたす

まいものでもムリ升ぬやどなしどもとは

申なからおゝくの人ころしお気つかひはムリ升ぬ

どこまでもわたたくしがいひぬいてしんせませう

往来ばたに犬のゑじき 杜へごしんせつなる

そのおことばにあまへ御家名きかぬその内に

さきになるせつしやがせいめいははんしうの

さんにしてそうじろう人白井ごん八と申もの

シラそこもとの御けめいは 幸へとはれて何の

何がしと名のる身ぶんでもムリ升ぬが

いつてへが江戸うまれ身は■なれし角田川

渡れ渡りのきさんじは江戸でうはきの花

川戸ばんずい長兵衛と申升 杜へスリヤ中国

すじにきこへ有江戸て名高きばんずいの

幸へモシくその長兵衛と申升ルはわしが親父で

ムリ升わしやア二代目の幡随長兵衛

訳に及ぬ子のむくちきまじめ

しやれといつちやアこれほどもねへ

たゞのきほひサ